

## 意味の決定と自己認識

朝倉 友海（東京大学）

言語的な意味が変化する場面では、文脈および意図による決定を用いて説明できる事柄が多い一方、認知的な変動を明らかに伴う事例がある。とりわけ述語や推論に生じる意味変化がそうであり、「心」のあり方による説明が重要になるが、こうした説明には意味を内在的なものとする傾向が伴う。そのため、意味がもつある種の外在性や、藤川（近刊）が注目するコミュニケーションにおける意味の調整といった局面との関係が、問われることとなる。本発表では、意味変化における「心」の側での変動の役割を考察するにあたり、たとえ外界に対する認識であっても自己に関わる側面がある点に着目するとともに、自己認識にすでに介在する客観性や社会性に目を向ける。自己認識がもつ構造がどのように意味の変化に表れてくるかをこの点から論じることで、意味の決定に対する自己認識の役割を位置づける。